令和６年４月 24 日

守山市 記者提供 資料

担当部署　文化財保護課（伊勢遺史跡公園）
担当者　伴野　幸一
電話　077-599-3223
FAX　077-599-3223

八ノ坪遺跡から出土した衣笠の立飾りを全体復元
―伊勢遺跡史跡公園遺構展示施設で展示公開－

八ノ坪遺跡（播磨田町）から出土した衣笠の立飾りを復元し、伊勢遺跡史跡公園で展示公開します。約 1,800 年前に守山に住まいした強大な権力をもつ大王の姿を想像していただく機会になれば幸いです。

衣笠は王やその一族など高貴な人物が屋外へ出たとき、従者が大きな笠を差し上げ、その居る場所を示した道具です。伊勢遺跡が終えんした後の古墳時代前期（約 1,800 年前）には下長遺跡（古高町）周辺で王の居館が営まれていたと考えられており、これまでの調査で多数の威儀具が発見されていましたが、八ノ坪遺跡でも全国で初めて衣笠の立飾りが出土したことにより、強大な権力をもつ王が守山にいたことがわかります。

日　　時　令和６年４月 25 日（木）から
　　午前９時から午後５時まで

場　　所　守山市伊勢遺跡史跡公園　遺構展示施設内

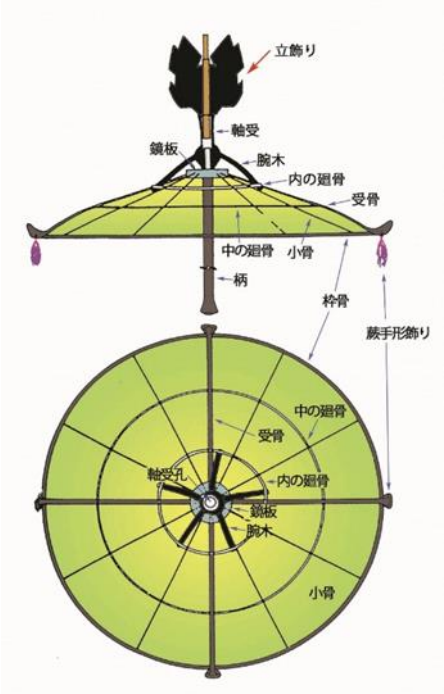
解　　説

八ノ坪遺跡から出土した衣笠の立飾りは古墳時代前期の遺物と推測され、本物の立飾りの出土例としては全国で唯一の事例。桂の木が使用されており、弧状の文様帯を縦横に組み合わせた組帯文（そたいもん）と呼ばれる文様が削り出され、上下二か所に長方形の透かしを開け、全体に黒漆を塗って仕上げられています。

立飾りを見ると、古墳時代前期の工芸技術が、極めて高度であったことがわかります。全長 200mを超える奈良市佐紀陵山（さきみささぎやま）古墳から出土した蓋形埴輪に似ており、大王級の豪族が守山に居たことを示しています。

衣笠の復元については守山市立埋蔵文化財センター職員の手により、約１年をかけて全体復元されました。

復元された衣笠



衣笠の構造図（浅岡俊夫氏作成）

衣笠の使用（想像図）